



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教100~110周年

標語

感謝の百年
希望の百年

(テサロニケ第1/5:18)

1963年9月20日 第3種郵便物許可 (毎月一日発行)

2017年1月1日(日) 第758号

発行所 福音新聞社 (1部100円)

〒169-0051東京都新宿区西早稲田2-3-18

☎03-3202-5398 info@kccj.jp

発行人/金性済・編集人/金柄鎬

印刷所 青丘文化社

2017新年
メッセージ

心に記された新しい契約

<エレミヤ書31:31~34>



総会長 金性済牧師 (名古屋教会)

旧約聖書研究のために米国の神学校GTU (連合神学大学院) に在学していた時、旧約聖書をヘブライ語原典で読む力をつけるために、ユダヤ人学生に協力を求めた時のことです。彼は私の頼みを断りはしませんでした。私が「旧約」と、聖書と呼んだことに対して、不快感をあらわにして、「自分たちにとってはこの書物は旧約ではなく、これが聖書(The Bible)なのだ!」と語気を強めて指摘しました。私はその時、キリスト者である自分の前にユダヤ教徒という存在が立っていることを、身の引き締まる思いで実感しました。以来私は、米国での研究生活の中で旧約聖書をヘブライ語聖書と呼ぶ習慣を持つようになりました。しかし、後日、その彼に、「エレミヤ書31章31節に記された『新しい契約』とは何を指していると思うか」と尋ねた時、彼が自分もよくわからない、と答えたことが印象的でした。私はその時、心の中で、「それは救い主イエス・キリスト」とつぶやいていました。

旧約聖書の三大契約(アブラハム契約<創世記15、17章>、シナイ契約<出エジプト記20-24章>、ダビデ契約<サムエル記下7章>)は、紀元前10世紀のダビデから、586年の、バビロニア帝国によるエルサレム神殿崩壊と民の捕囚に至る四百年余りの間に、人間の側の墮落によって破綻してしまったことを、今日の本文の中で預言者エレミヤは思いめぐらしているのです。神は、それにもかかわらず、ご自分の民を呼び集める契約の熱意と志をお捨てにならず、これから新しい契約をお立てになることを、エレミヤは希望の預言として書き記し、人々に語りかけたのです。イエス・キリストの福音を記す書物をヘブライ語聖書と区別し、新約聖書と呼ぶ聖書の根拠を、私たちキリスト者は、このエレミヤ書の本文に見出すことができるのです。

新しい契約とは何か。数千年前のユダヤ人でもない私たちにとっても、やはり「旧約」から「新約」への道をたどって、一人ひとりがキリストの信仰にたどり着くのです。すなわち、私たちは、ユダヤ人ではなくとも、人として神の創造の秩序の中で、自分ではどうにも贖うことのできない罪人としての現実を抱え苦しみ悩みながら人生をさまよってきたのです。私たちはそれぞれ、自分の過去に消すことも忘れることもできない過ちと後悔の経験を重ねるうちに、罪という問題にたどり着き、もたえ苦しむのです。その中で、ついに救い主としてのイエス・キリストに出会い、主にとらわれ、新しく生まれ変わるものとされることが、私たちがたどる道なのです。それは私たち一人ひとりの人生における「旧約」から「新約」への救いのドラマともいえます。もう自分は罪赦され救われた存在、という安易な思い込みによる惰性的な教会生活から信仰が墮落することがないように、宗教改革者マルティン・ルターが残した言葉があります。「義とされた者であり、同時になおも罪人」(simul

justinus et peccator)であり、「今も現実において罪人でありながら、絶えず未来に向かって義とされる者」(justinus in spe, peccator in re)としてキリスト者は生きるのだ、ということです。ですから、「旧約」に対して「新約」とは、いずれまた時が過ぎれば古くなるというのではなく、「新約」の「新しい」とは、ただ一度の、唯一、最後の救いの道という意味が指し示されているのです。

この世界、そして権力と富を握る者たちが墮落していく現実の中で、いったい教会は、そしてキリスト者は何をしていたのか。ひたすら、富と名誉を祝福のしるしとして教会生活の中で追い求めながら、この世界において正義と公正が踏みじられ、そして貧しく小さくされた人々が虐げられ続ける現実に対する神の悲哀に思いを馳せることを忘れ、この世界にあつて預言者の職務を担うことを怠ってきた教会が今ほど主の前に悔い改めなければならないときはない、という言葉が、現在政治的激動の渦に呑み込まれた韓国のキリスト教指導者の口から聞いたことを忘れられません。

エレミヤは、神はこの新しい契約を、「心に記す」と言われたと告げます。これは、言葉を文字として書物に記すこととの対比が暗示されています。エレミヤのこの言葉の背後には、エレミヤと全く同時代を生きたヨシヤ王が紀元前622年、神殿修理の最中に発見された「契約の書」(今の申命記の原型ともいわれる)を読み、衝撃を受け、自分の衣を引き裂き悔い改め、宗教改革を推進していったエピソード(列王記下22章)があるように思われます。つまり、ダビデ以降、イスラエルの指導者たちは書物としての神の言葉をおろそかにし、神の言葉の前に絶えず悔い改めるべき信仰を形骸化させながら、墮落を深め、ついに国家と民族の滅亡を迎えるようになったという思いにヨシヤ王は目覚めた。つまり、ヨシヤはその瞬間、まず自分の罪を悔い改める王として神の言葉を心に刻みながら、宗教改革に着手するようになった、というエレミヤの理解です。したがって、「心に記される」神の契約とは、単に書物の否定ではなく、心にいつも悔い改めの信仰を呼び起こす、神の赦しに至る唯一の帰りの道としての契約という意味が暗示されているのです。

今日の韓国においても、また私たち、「在日」を生きる在日大韓基督教会として、今年、宗教改革500周年を迎え、記念しようとしています。それをただのお祭りで終わるのではなく、「在日大韓基督教会」が韓国と日本のはざまに、そして「ザイニチ」の中に遣わされ、和解と共生平和の宣教の使命を担い続けるための、主を立てて下さった「契約」共同体であることを、私たち教役者、長老、信徒はもう一度しっかりと自覚しなおして、悔い改めと改革の十字架を負って主に従う者となりましょう。

新年
抱負傷つけられた心の癒しと
回復のための努力

関東地方会長 金根湜牧師



2016年は丙申年の一年でした。気が気でない一年でした。そのざわついた雰囲気は未だに続いているようですが、2017年はそれらから離れ、正義と平和、平等と公平によって、希望溢れる一年になりますように願っています。

2017年は鶏年の丁酉（ひのと）の年です。そこで鶏のもっている象徴的な意味を調べてみました。鶏の鳴き声が夜明けを知らせることから、宣言や目覚めを意味し、新しい時代の始まりや偉人の誕生を知らせると解釈をしている記事がありました。その解釈のように、夜明けを知らせながら祈る私たちが在日大韓教会のすべての教会、そして信徒となることができればと思います。祖国の政治的な状況においても指導者の重要性を認識し、このような痛みが二度と訪れないように願いつつ、新しい時代にふさわしい国の指導者が立てられればと思います。

2017年は次のような希望を持ちたいと思います。まず関東地方会長として、①東京教会の件で傷ついた方々が癒され回復するために全力を尽くすこと。②このような痛みが再び起きることのないように法の秩序を正すとともに、互いに理解し親密になれる集いが増えればという願いを持っています。

また、一教会の牧会者としては、①赴任して9年目を迎えました。絶えず教会の本質と牧師のアイデンティティを問い続け、本質から逸れないように努力していくこと。②関東地方会の中心にある教会として、地方会に奉仕するさまざまな方法を探求し、仕える者の役割を果たしてまいりたいと願っています。

2017年は、祖国の大韓民国をはじめ、私たちが住んでいるこの国においても神のみ業があらわれる国であることを、総会と地方会にも鶏の鳴き声を聞いて悔い改めの涙をこぼしたペテロのように痛哭の祈りをささげ、新しい時代を切り拓いていく私たちの総会と地方会になりますように切に望みます。

新年
抱負

回復と恵みの年に

中部地方会長 全炳玉牧師



中部地方会は10ヶ所の教会が2016年を無事終えることができました。特に昨年一年は中部地方会にとってたくさんの変化や回復する時間となりました。新しく岡崎教会の牧師や信徒たちとともに中部地方会のために仕えることができ嬉しです。また、なにより岐阜教会に高誠牧師が新しく赴任されて

間もなく教会堂が倒れそうになる危険なとき、教会堂を使用できない絶望的な状況でも神様の恵みで牧師と信徒が力を合わせて新しく教会堂を建築する夢とビジョンを持ち、今年2月中旬に、遂に工事を開始することになりました。この出来事のあかしを聞ける機会が秋の完工時にできることと信じ、すべての地方会の教会が共に祈りしています。2017年新年は豊田めぐみ教会にも神様の計画によって回復されることを期待しています。

中部地方会は集まると賑やかな雰囲気と共に激励や慰労しい、お祈りで支えていく地方会になるよう努力しています。今年3月に予定している合同信徒研修会では多くの地方会の教会が参加し、共に分かち合いながら信仰の成熟に力を入れ、10月宗教改革賛美大会ではすべての地方会に属した教会が参加し、神様の下で良い交わりの時間を持つ予定です。

集まったら交わりやお祈りをし、散らばったら愛し、伝道するキリストの成熟な人材になる中部地方会を作り上げようと最善を尽くしています。

新年
抱負総会の宣教理念と
課題を分かち合う

関西地方会長 金鐘賢牧師



新年を迎え在日大韓基督教会に連なる各教会が願っている祈りと希望が叶えられるようお祈り申し上げます。在日大韓基督教会は多様なルーツを持っている教役者と信徒によって構成されている教団であるので、総会の宣教理念と課題を各教会が分かち合うことが大事であります。各教会は

総会と同じ体であり共同体であることを覚え宣教理念と課題を理解し協力して行くことが大切であると思います。

第3回「マイノリティ問題と宣教」国際会議が終わってから、我が総会はマイノリティ宣教センター設立を準備して来ました。今年、皆の協力を頂き、日本において世界教会と共にマイノリティ宣教センターが設立され、マイノリティ宣教が、実行されるように祈ります。

日本は今、過去の排他的民族主義、軍国主義の時代に戻り軍事力を強化し軍事大国を目指しております。ヘイトスピーチや在日朝鮮・韓国人や外国人に対する差別が起こり、ますます外国人が住み難くなっております。我が総会は今年も日本において、正義、平和、命を守り、小さき者と共に生きる共生社会を目指して行く事を願います。

総会と地方会は、今現在、各教会が直面している問題と経済的混乱にも目を向け、未自立教会と教役者を支援して行く対策を立てるべきであると思います。未来に向け青年指導者育成にも関心を持ち、力を入れることも大切であると思います。2017年は宗教改革500周年を記念する年です。我が総会、地方会、各教会がもう一度「ただ神に栄光」、「ただ聖書」、「ただ信仰」の宗教改革の精神に戻り新しく変えられる年となることを願います。

新年
抱負前に向かって主と共に
前進して行く

西部地方会長 金承熙牧師



昨年も、主の愛により守られこのように新年(2017年)を迎えることができ心より感謝いたします。西部地方会は現在13教会、2伝道所と小規模ではありますが、主の御言葉を中心とした規則正しく秩序ある平和な安定した地方会であり、イエスキリストを中心とする家族は争いがなく、憐れみがあり、

主の恵みによる聖霊の一致がなされている地方会であります。また外部との宣教協力関係においても韓国の蔚山老会また日本基督教団の兵庫教区と日韓交流信徒大会(34回)を通して親交を深めていますし、地方会内の各部各機関においても様々な活動を行っています。しかし総会が掲げる超教派性、マイノリティ性、多様性に関する宣教活動の参与においてはまだまだ消極的であり包括的な「神の宣教」を担っていく上では不足している面もあります。

また西部地方会の現況は、複数の教会における担任牧師の不在、未自立教会の停滞、青年活動への弱配慮など重大な核心的問題が山積みであります。任職員会としても目前の問題処理に追われるばかりで本質的により大切な事柄に怠惰であったことを反省しなければなりません。しかし私たち西部地方会はパウロがフィリピの信徒への手紙3章12節で言うように「既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです」という御言葉にあるように改善すべき事は多くありますが、とにかく目標を目指して一歩一歩前進、前に向かって主と共に“press on” 歩んで行きたいと思ひます。

新年
抱負

任職員会を大切に、 歴史認識を共有 西南地方会長 朱文洪牧師



昨年は熊本・大分震災が続く中で、各地からの連帯と祈りに心から感謝します。

年末に「先約があるので、」とノーベル授賞式に欠席したボブ・ディランさん。「一私は5万人のためにも、50人のためにも演奏してきました。本当は50人のために歌うことが難しいです。5万人は一つの人格を持ちますが、50人は個々のアイデンティティーを持っています。」(12/13、朝日新聞)との言葉に共感を覚えました。礼拝出席者が徐々に減っていく中で、一人一人の存在が大きく浮かび上がる体験をしているからです。一人の信徒が抱えている重荷と真剣に向き合わなければとの思いを強くしています。貧しさの中でお産まれになる救い主を迎えたいです。

西南地方会は山口県から九州、沖縄、対馬の広い範囲。年4回以上ある任職員会などを大切にしていきたいと思えます。経費は負担になりますが、地方会から牧会を委任された教役者を孤立させない装置でもあります。「不通」は個性ではなく機能不全で無能とも言えます。個の祈りと弱さを共同体が共有し励まし合う一つの体を形成していくと全体が豊かになると思えます。

当地方会に西南韓国基督教會館(西南KCC)、女性会連合会が両羽のように活動しています。不寛容な時代に、在日少数者に対する風当たりがますます強くなりました。歴史認識を共有できる人々との連帯と自分の存在意義を確かめる作業を西南KCCから、信徒の大多数の女性の居場所となる活動を大切に連帯していきたいです。

新年
抱負

積極的に怯まず連帯感を 強め成長できることを 全国教会女性連合会会長 金英淑



主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。

走ってもたゆまず、歩いても疲れない。(イザヤ40:31)

2017年、新しい希望の年を与えてくださった神様に感謝いたします。また在日大韓基督教會に属するすべての信徒の皆様、女性会会員の皆様、新年明けましておめでとうございます。神様の大きな祝福がありますように。

「いのちの神よ、私達を正義と平和に導いてください」信徒一人ひとりが聖霊に満たされ平和のために闘うキリストの働き人になれるように祈ります。

総会110周年を前に私たちは何を反省し、また何を希望し、何を目標として前進することができるのでしょうか？ 共に考えてみませんか？

昨年も、「ナルドの壺(つぼ)運動」にご協力くださり感謝いたします。全国教会女性連合会の種々の活動の中で、この働きこそ「小さい祈り」の結集であり、隣人としての働きのひとつだと思います。自分の立ち位置でできることを、一人ではなくみんなで共に力を合わせることで形として実現されています。神様に感謝、そして協力してくださった皆様に感謝です。と同時に、これからもますますのご協力、参加をお願い致します。

神様に与えられた今年一年も、女性会は何事においても積極的に怯まず連帯感を強め成長できることを心から願います。

また各教会で起きている様々の問題のために、血の滲むような涙の祈りと奉仕に励んでおられる兄弟姉妹の姿を思うと心が痛みます。神様の憐れみが豊かにありますように。恵みの中で

相手を認めあい、赦しあい、解決の道を与えてくださいますように私たちは神様に切に祈ります。

新年
抱負

教会の平和のために 互いに一致する1年 全国長老会長 尹聖哲長老



主に愛され、罪赦された、愛する同胞の皆さん、新年おめでとうございます。

全国長老会長に立てられ早や一年が過ぎましたが、執行部の組織編成に手間取り、昨年3月から新役員で執行部を運営しています。

まずは長老会全体での情報共有を図ろうと思い連絡網の整備を行いました。その作業の最中に2016年4月14日、熊本地震が発生しましたので、熊本教会と信徒の被災状況および総会の活動について、4月17日に初めて新しいメーリングリストを用いた情報発信を行いました。まだまだ十分な情報共有には至っていませんが、本年も引き続き小さなことから大きなことまでできる限りの情報発信を行っていかうと思っています。また普段はお互いに離れていて接点が減りつつある長老たちの意見の場としてこの連絡網を利用しようと計画しています。何故なら私たちの考えや思いを明らかにすることで、お互いを理解し一つになりたいからです。

一方、私たちの総会内では解決されていない諸問題が多く残されています。その一つに長老がかかわる教会内対立や混乱、財政問題があります。罪赦され主イエスにつながって一つになったはずの私たちですから、教会の平和と治理を委ねられた長老こそが率先して、悔い改め、常に御前に立った思いでへりくだり、自我よりもみこころを第一にすべきではないかと思えます。是非今年も、長老たちの心と思いが主イエスのみこころと一致し、そうなることで長老たちも互いに一致する一年でありたいと願ってやみません。

新年
抱負

全協の再興に向けて、 見つめ直す時間を作る 青年会全国協会代表 張晶洙



主の御名を賛美します。はじめまして、青年会全国協会(以下全協)の会長をしております川崎教会の張晶洙です。このたびは福音新聞で一年間の抱負を書かせていただくことになりました。拙い文章ではありますが温かい気持ちで読んでいただけたら幸いです。

私の抱負は「青年会全国協議会の再興」です。昨今の教会の青年離れは目に見える範囲で表れています。就職や進学に伴う心境、環境の変化。信仰の悩み、葛藤によって教会に行けなくなってしまう青年が私の周りにも多くいるのが現状です。そんな現状もあり、近年の全協の青年参加人数も例年ごとに減っています。そんな現状を打破したく全協が考えていることがあります。それはもう一度、「キリスト教と私」、「教会と私」を見つめ直す時間を作ること、悩み、葛藤、想いを吐露できる空間を全協という場所を行っていきたく思っています。そして「御言葉」「祈り」「讃美歌」を通して信仰を心から楽しむ、喜びを享受することも力を入れていきたいです。

ただ、私一人ではとても成し遂げることはできません。なので全協の役員たちの力をはじめ、全国の在日大韓基督教會の信徒と青年の方々のお力を頂戴したいと思います。もちろん、私たち主・イエス様に祈り続けることも忘れません。これからの在日大韓基督教會を担う青年の信仰の拠り所として在り続けるために、頑張ってゆきますので宜しくお願い致します。

関東女性会

「讚美とみ言葉の夕べ」開催 東京希望キリスト教会で10教会が参加

2016年度「賛美とみ言葉の夕べ」が関東地方会女性部と女性連合会の共催で9月25日午後3時半から東京希望キリスト教会で開催された。東京希望キリスト教会賛美チームの賛美から始まり、地方会長の金根湜牧師の説教と熊本震災支援献金がなされた。



二部の賛美大会は東京教会をはじめ、10カ所の教会が参加し、練習した賛美を主に捧げる恵みの時間となった。また、去年に続き横浜教会の聖舞が特別な時間を作ってくれた。各教会が丸丸となって練習した賛美を審査するのは大変であったが、審査結果、川崎教会、横須賀教会、品川教会が入賞した。2017年度は多くの教会が参加し、最も意味深い「賛美とみ言葉の夕べ」となることを期待したい。

(報告:李敏禮)

関西聖歌隊

邑久光明園家族教会訪問 1999年からハンセン病患者慰問

1996年ハンセン病療養所の邑久光明園・長島愛生園を音楽集会で訪問したことをきっかけに1999年から邑久光明園家族教会を訪問してきたが、今年も9月19日、指揮者尹聖澤長老を含む15人の隊員と一緒に訪問した。家族教会の方々と毎年参加してきた岡山教会の信者および日本基督教教団東中国教区教会青年交流キャンプに参加した青年たちと一緒に礼拝と賛美を捧げた。

大阪第一教会の宋南鉉牧師がサムエル上30章21節から23節で「主が私たちに与えられることを」というタイトルで御言葉を述べられたのちに「関聖連が日々主だけに仕える」など2曲を讚美した。交わりの時間には4人の方が好きな賛美と一緒に歌う時間を持ち、小さな証も聞いた。102年になるハンセン病患者隔離施設で70年、80年を生活してこられた痛みと恨みが彼らの証言で、毎年違う形で私たちに迫ってくる。

主の愛がなかったならば、その数多い歳月を……。

身体の不自由なお歳を召した方と今年4名が共に交わったが、80歳になられた在日同胞である方が、独りだけ残ったとしてもまた来てもらいたいとおっしゃっていた。本当に純粹で讚美が好きな方々だった。

(報告:金玉京長老)



東京教会 鄭鍾実名誉長老召天 第46回総会期の副総会長として奉仕



去る2016年11月6日、東京教会の鄭鍾実名誉長老が持病により天に召された。享年83歳。

故・鄭鍾実長老は1933年日本で生まれ、1991年に東京教会の長老と將立された。第46回総会期(2001年~2003年)副総会長として仕えられた。

西部地方会

「信徒の集い」開催 パート別に分かれて練習し大合唱

11月20日(主日)西部地方会信徒部による第14回「信徒の集い」が武庫川教会で開かれた。各教会から約80名の信徒が集まり、今年は壮年会の担当で「主題:主を賛美しよう、ハレルヤ」の下、一部は青年会、壮年会、女性会から一名ずつ思い出の賛美歌とそれにまつわるエピソード(証し)をして頂いた。

二部はヘンデルの「ハレルヤ」をパート別に分かれて約1時間練習の後、礼拝堂に集まり神様に大合唱を捧げた。中には初めての人や楽譜の読めない方もいたがそれなりに各自が思い切り大きな声で主に向かって歌っていた。その後、愛餐会の時を持ち賛美の成果について語り合いながら食事をし、恵まれた時間を共有して「信徒の集い」を終えた。

(報告:朱京中長老)



岐阜教会災害による 祈りと支援のお願い

昨年4月25日に岐阜市で起きた地震の余波により、それまで老朽化していた岐阜教会の建物が破損。7月2日には右側の外壁の一部崩壊が発見され、専門家の診断を受けたところ、修復不可能であり、崩壊の恐れがあるという



ことで教会堂と牧師館の撤去を余儀なくされ、去る7月17日から日本基督教団華陽教会に臨時礼拝場所を設けた岐阜教会は、今まで信徒と各地の教会の祈りと支えによって教会再建(新築)に向けて建築募金を行なっている。去る10月14日の総会常任委員会で総会内教会募金とエクロフ融資の申請が承認され、再建築として、建築委員会を通して1997年に与えられた岐阜教会の土地に教会堂新築を進めており、今年の3月末に着工・9月末に入堂することを祈りの課題としている。震災当初岐阜教会の建築繰越し金は259万円しかなかったが、今は、主の導きの中、約3500万円近くの募金が集まっている。しかし、牧師館を2階に設けた上、まっとうな礼拝活動を行うためには、6000万円の建築資金が必要とされる。予測できなかった震災で、急いで会堂建築にあたり、資金集めが困難な状況であり、我が総会内教会の祈りと緊急援助の献金が求められている。5つのパンと2匹の魚の奇跡が主の恵みの中で起こることを切実に求められている。

(報告:高誠牧師)